

# 子育て情報室標準プラン及びデザインガイドライン

札幌市子ども未来局子育て支援部

1. 全体デザインコンセプト

<基本方針>

①あたたかな雰囲気のある空間づくり

- 事務室的な家具・什器類やパーテーションをあたたかい素材、明るい色彩のものへ変更する

②情報室の特徴を印象づける統一感のあるデザイン

- 空間づくりの明確なコンセプトやテーマを持ったうえで統一感のある素材・色彩を選択する

③情報コンテンツの背景となるシンプルな空間デザイン

- 様々な子育て情報に関するチラシ・ポスター類、絵本・手作りおもちゃなど情報室のコンテンツが主役となるように家具・什器は過度な装飾性のあるものとしな

<造形デザイン>

- ①木を基調とした家具・什器類を活用する
- ②子どもスペースの壁面・床には大きな面としてカラフルな色を活用する
- ③ベンチ・スツール等の座面には空間のアクセントとなる色を活用する

2. ゾーニング・動線・機能構成

<基本方針>

①保育士の顔が見える室内レイアウト

- 【分室型】については、情報室内に保育士が常駐し来室者に対応しつつ、軽作業等ができるスペースを確保する
- 【事務室一体型】についても、来室者に即時対応できるよう情報室に顔を向けた保育士スペースを設ける
- 保育士スペースは、出入口から見通しがきき、室内全体に目が行き届く場所に配置する

②情報/子どもスペースの明確なゾーン分け

- 親が子育て情報を見る・閲覧する場所と子どもスペースを混在しないように家具・什器類をレイアウトする
- 情報スペースは、情報室の出入口側に配置する
- 子どもスペースは、情報室の奥側の動線が交錯しないたまりとなる場所に配置する

③家具・什器の整理とバックヤードの有効活用

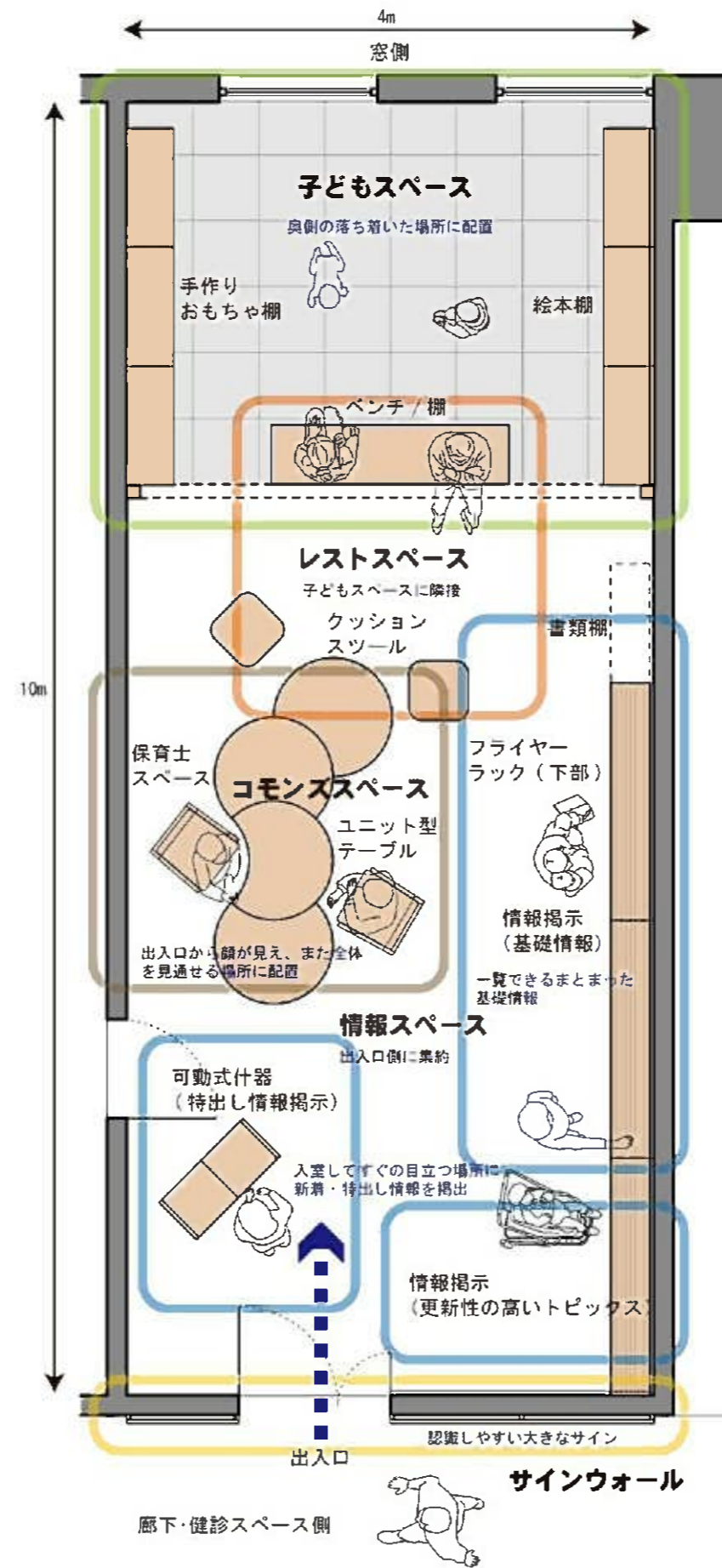
- 利用者にとって不要な、ストックのための什器類はバックヤードに配置する

④レスト・ commonsスペースの配置

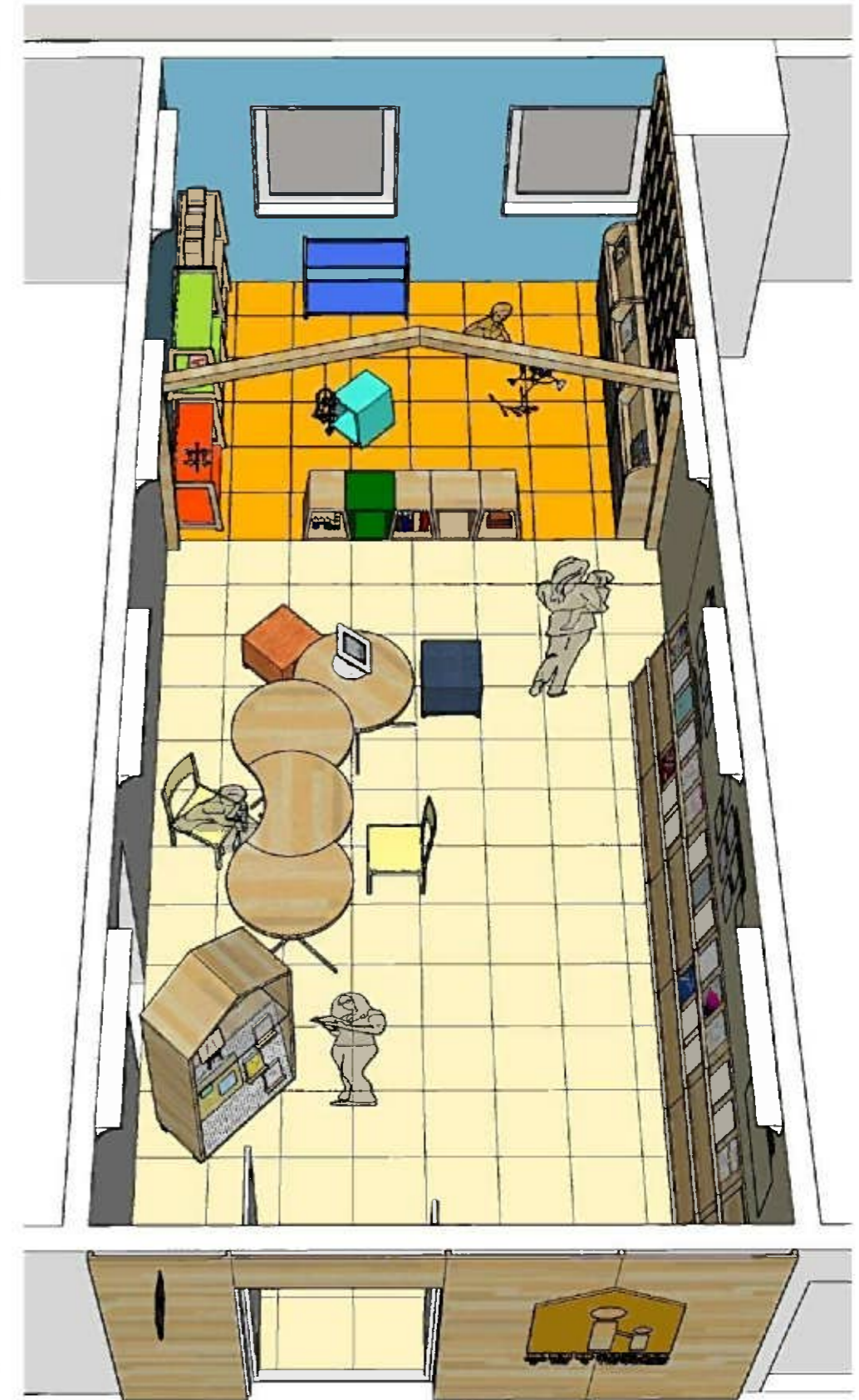
- 親が子育て情報を閲覧・保育士と会話、子どもを小時間遊ばせる間休憩できるスペースを配置する

<造形デザイン>

- 右記のゾーニング図を標準モデルとしてレイアウトする



ゾーニング図 (縮尺 S=1/50)



見下ろし全体イメージ

### 3. サイン・出入口

#### <基本方針>

##### ①メインサインの統一

- 情報室のメインとなるサインは統一したデザインとし、複数のデザインのものを出さない

##### ②わかりやすいアプローチ空間のデザイン

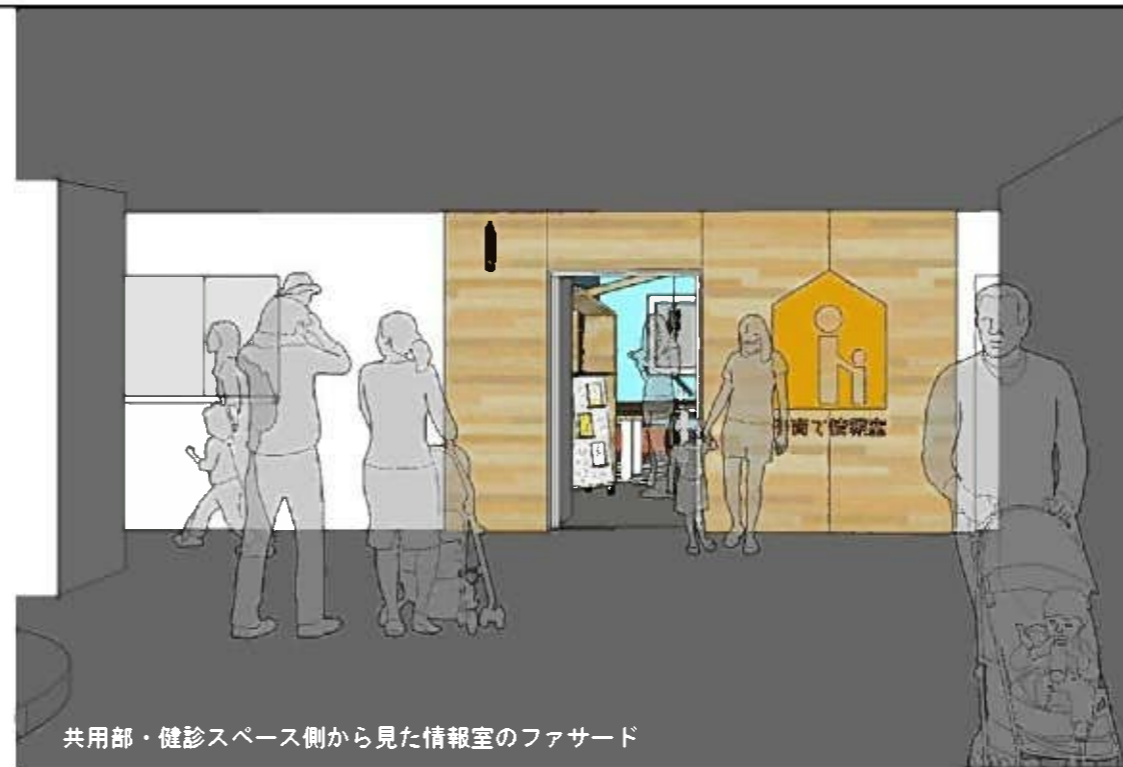
- 情報室の出入口部分は、周辺の壁面と対比させる統一な素材・色彩を用いて、できる限り大きな面をつくり、認識しやすいデザインとする

##### ③共通ロゴを活用した誘導サイン

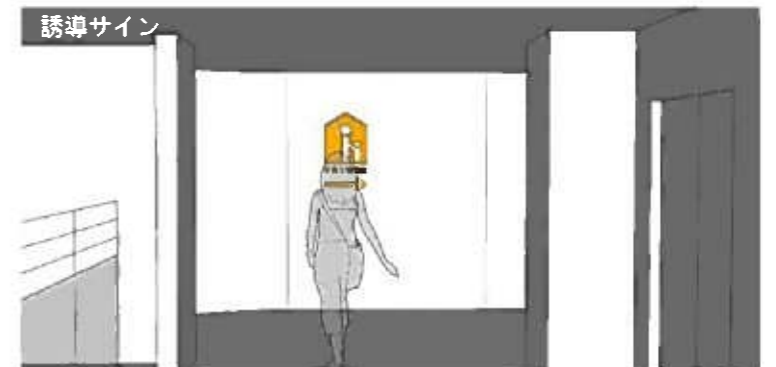
- 施設出入口、エレベーター前、廊下、健診スペース等に情報室へ誘導するためのサインを掲出する
- 誘導サインは他の掲示物等に埋没しないように掲出する

#### <推奨デザイン>

- ①室内空間と調和した木を基調とするサインウォールを設置する  
(情報室と共用部を区切る壁面がない場合はゲートとなるフレーム等を設置)
- ②共通ロゴを大きく共用部側に掲出する
- ③情報室の愛称がある場合は共通ロゴ下部に添えるように掲出する
- ④誘導サインには共通ロゴと方向を示す矢印のみを使用する



共用部・健診スペース側から見た情報室のファサード



### 4. コモンズスペース (相談・休憩)

#### <基本方針>

##### ①休憩・相談スペースの集約化

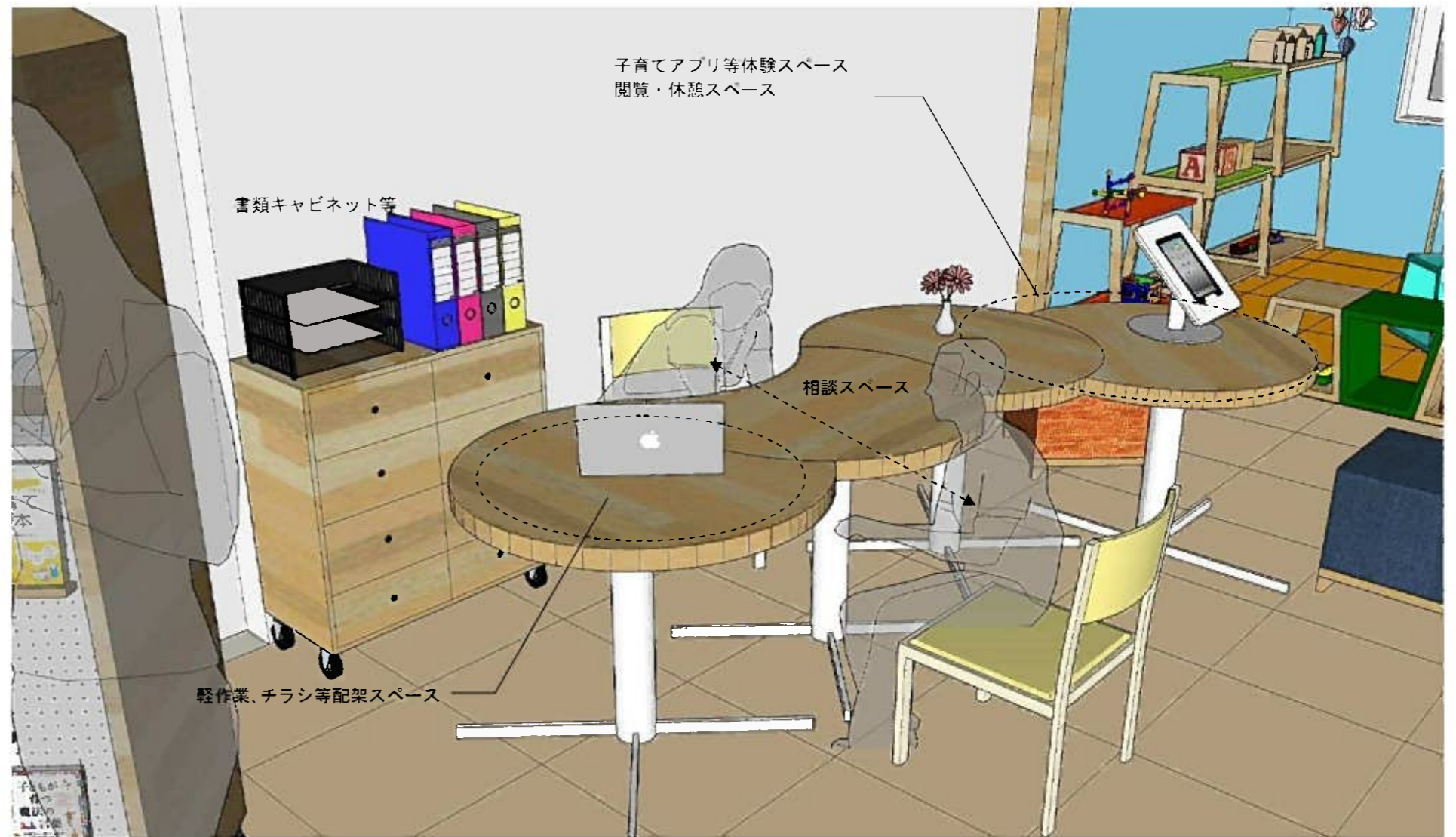
- 現状多くの区で活用されている4~6人掛けの大テーブルは、保育士が常駐する相談スペースへ集約化し、情報室の中のコモンズ(共有)テーブルとする
- コモンズスペースは、できる限り情報室の中央に配置する

##### ②自然なかたちで向き合えるテーブルデザイン

- 保育士が常駐するテーブルは、保育士と利用者が積極的にコミュニケーションできるようなデザイン・配置とする
- 【分室型】の場合は、常駐する保育士がデスクワーク等ができるスペースを確保する

#### <推奨デザイン>

- ①クッション性のあるスツール席と背もたれのある椅子席を組み合わせる
- ②組み合わせ方によって様々な活用ができるユニット型テーブルを活用する
- ③多様な方向性のある曲線を用いたやわらかい印象のテーブルデザインとする



## 5. 情報掲出

### <基本方針>

#### ① 情報が混雑した状況の改善

- 面を見せて掲示する情報、書類棚に収容する情報を適正に整理する
- 壁面・パーティションを活用し、できる限り連続してまとまった掲出面を確保する
- 掲出面以外（キャビネット、通常の壁面等）へ情報を貼りださない

#### ② カテゴリごとの整理と認識しやすいインデックスサインの掲出

- 更新性の低い基礎情報と更新性の高いトピックスを分類して掲示する
- 手作りによるサインをやめ、統一したインデックスサインを掲出する

#### ③ 新着情報や特出しする情報アピールできる掲出方法

- 新着情報や特出しする情報をアピールするための可動式什器を配置する
- 絵本や育児書等については、テーマの設定、季節等に考慮した紹介や、カバーをしっかりとみせる陳列を行う

#### ④ IT 技術を活かした情報発信の検討

- タブレット端末等を活用した情報発信を行うスペースを確保する

### <施設デザイン>

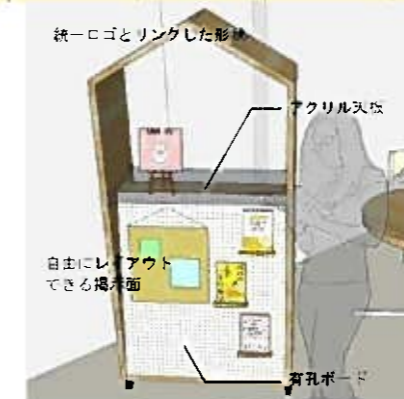
- ① 掲示板クロス（マグネット対応）を活用した大きな情報ウォールを確保する
- ② フライヤーラックは木製とし、規格を統一して掲示板クロス下部に集約する
- ③ 可動式什器は、運営者の工夫で特出し情報を掲出できるよう自由にレイアウトできる掲出面・天板を備える（例：有孔ボードとフック等の活用）
- ④ インデックスサインは右図の仕様とする（サイズ・形状・文字・ベース色）
- ⑤ 情報のカテゴリは、基本情報として【子育てサロン】【子育て関連制度】【保育園・幼稚園】【サークル・ボランティア】、更新性の高い情報として【イベント情報】が考えられるが、各区の運営状況を踏まえて設定する



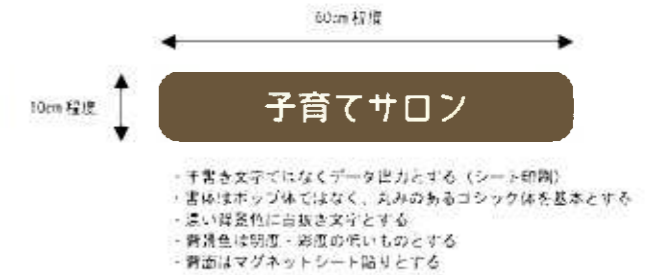
連続してまとまった一覧性の高い情報ウォール



可動式什器のデザイン例



インデックスサインのガイドライン



### <基本方針>

#### ① 子どもスペースの常設化

- ジョイントマット等による仮設的なものではなく、常時靴を脱いで滞在できる場所を確保する

#### ② 安心して滞在したくなる設え

- 子どもスペースには、絵本書棚や手作りおもちゃコーナーを集約化する
- 子どもスペースへの視認性を確保しつつ緩やかに囲われた環境とするよう、背の低いベンチ・棚等により区分する
- 床素材は、情報スペースと区別し、安全性、維持管理の容易さ、防音・保湿性、子どもスペースとしての楽しさに配慮したものを活用する

### <施設デザイン>

- ① 情報スペースと子どもスペースを区分する場所に、空間的な囲われ感を演出するフレームを設置する（モバイル等を吊り下げるベースとしても活用）
- ② 貸し出し頻度の低い絵本などを整理した上で、間引いた絵本を壁際に平置きし、絵本に囲われた楽しい空間を演出する
- ③ 床素材については、ベースをコルクタイル等としその上にラグマットを敷くか、カーペットタイルとする

